特別寄稿

# マレーシア東方政策のニューウェーブ

## ―日本式工学教育と茶道―

前・駐マレーシア特命全権大使
**堀江 正彦**（明治大学特任教授）

**堀江 正彦**
Masahiko Horie
明治大学 研究・知財戦略機構
特任教授
外務省
（駐カタール特命全権大使など歴任）

**【学歴】**

昭和44年　大阪大学経済学部卒業
46年　米国チューレイン大学大学院経済修士課程修了
48年　大阪大学法学部卒業
50年　フランス国家行政学院（ENA）

**【職歴】**

昭和48年　外務省入省
経済局経済統合課
58年　国際連合事務局明石康国連事務次長特別補佐官
平成 元年　経済局国際機関第二課長
2年　在デンマーク日本国大使館　参事官
4年　在ケニア日本国大使館　公使
7年　経済協力局技術協力課長
8年　経済協力局政策課長
10年　在フランス日本国大使館　公使
14年　防衛庁防衛参事官（国際関係担当）
東京ディフェンス・フォーラム議長
16年　特命全権大使　カタール国駐箚（ちゅうさつ）
19年　特命全権大使　マレーシア国駐箚
23年　特命全権大使　地球環境問題担当
24年　明治大学　研究・知財戦略機構　特任教授
国際熱帯木材協定（ITTO）理事会議長
25年　国際自然保護連合（IUCN）理事
国連事務総長「万人のための持続可能なエネルギー（SE4All）」諮問委員会メンバー
地球環境問題担当大使（外務省参与）

2010年4月19日、鳩山総理との首脳会談を終え、晩餐会を了して赤坂迎賓館に戻ってきたマレーシアのナジブ首相が、当時駐マレーシア大使であった小生に向かって、「大使、これまで長い間の懸案であった日本マレーシア国際工科大学設立構想を実現したい。是非とも、マレーシアで日本式工学教育を行う大学をスタートさせ、東方政策の新しい地平線を切り拓きたい」と真剣な面持ちで話しかけてこられた。

幾つかのポイントをご説明申し上げたところ、ナジブ首相は「大使には、この大学が世界でも一流となり、日本からも留学生がやってくる位のものにして貰いたい」と応じられた。ナジブ首相は帰国直後の閣議で、関係閣僚に「日本マレーシア国際工科院（MJIIT）」設立のための指示を出されたが、このナジブ首相の決断には、一国の指導者としての面目躍如たるものがあった。

そもそも、講座制を基礎とする日本式工学教育をマレーシアで行う大学を設立する構想は、1981年に第4代首相に就任すると同時に日本・韓国に学ぶべしという「東方政策」を打ち出したマハティール首相が、2001年当時、小泉総理に持ちかけたもの

である。その後、10年という長い紆余曲折を経て、2011年に小生がマレーシアを離任する僅か3日前に、ナジブ首相に対し、我が国としてもMJIITの設立に協力する旨の意図表明を行うに至ったのは画期的なことであった。

MJIITは2012年、首都クアラ・ルンプールにあるマレーシア工科大学（UTM）の国際キャンパスで晴れてスタートし、現在、教員数62名のうち日本人教員14名が日本の25の大学からなるコンソーシアムから派遣されている。明治大学も連合コンソーシアムのメンバーであり、技術経営学小委員会の共同副幹事校として貢献している。MJIITの学生数は現在約550人で、2017年には2500人規模を計画している。小生は、ナジブ首相の決断の際の経緯もあり、一昨年より「マレーシア工科大学MJIIT担当大使」なる肩書きで大学のアドバイザーの役割を務めることとなった。

昨年、このMJIITが軌道に

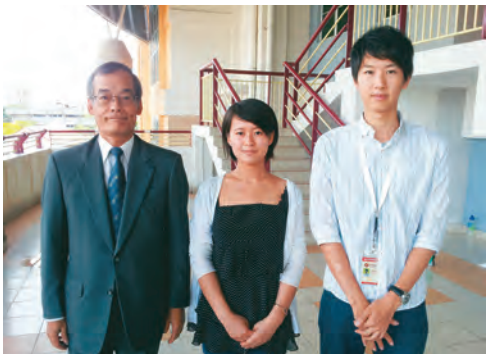
## マレーシア日本国際工科院（MJIIT）

マハティール首相（当時）の提唱により1982年から開始された「東方政策」の集大成として、マレーシアに日本型の工学系教育を行う大学を設立する構想から出発。2001年にマレーシア政府から日本政府への国際工科大学設置の提案を受け、日本・マレーシア首脳会談で構想の推進で一致。マレーシアにて既存の大学から独立した大学を設立すべく検討が進められてきたが、日本・マレーシア双方からの協力の在り方や実施体制について結論が出ず、協議が続けられた。その後、マレーシア工科大学（UTM）にマレーシア日本国際工科院（MJIIT）を設立するアイデアが浮上、2009年10月及び2010年4月の首脳会談を経て、5月にMJIIT設立がマレーシア政府により閣議決定された。

UTMの下であるが独立性の高い、大学院に重点を置いた学術機関（工科院）として設置。長期的にはASEANを含めた国際的な工学教育のハブ化、日本・マレーシア産業界も関与する産官学民プロジェクトへの育成も視野に入れる。

2011年9月12日に初年度学部生約70名、大学院生約30名を受け入れ、開校した。

渡邉俊介君、ウィラ先生とともに（筆者左）



山口大学からMJIITに留学した
小畠彩香さん（中央）を囲んで

乗った頃合いを見計らって、今日でも隠然たる政治力を有するマハティール元首相を往訪し、現状報告をするとともにＭＪＩＩＴを訪問して学生達に檄を飛ばして貰いたいとお願いしたところ、「そうさせて頂こう。ところで大使にお願いだが、ＭＪＩＩＴでは学生達に茶道を教えて貰いたい」と仰せられた。小生の方から「承知しました。日本人会で茶道の先生をしておられる方にお願いして、ＭＪＩＩＴで茶道のデモンストレーションをして頂くよう話をしてみます」と応じたところ、「いや大使、そうではない。デモンストレーションで学生達がお茶を味わうのではなく、彼らが必修科目として茶道を学び、学生達自身がお茶を点てられるようにして貰いたい」と極めて真面目な眼差しで言われた。これは青天の霹靂で、小生としては二の句が継げられず、唯々驚いてしまった。

日本文化への造詣が深く、それ故に「東方政策」で日本に留学する学生に対して、単に日本式工学を学ぶだけでなく、日本文化や日本人の魂をも理解してくるようにと叱咤激励してきたマハティール元首相は、茶道こそ日本文化の神髄であり、これをマレーシア人の工学生が習得することこそ、マレーシアを真に先進国入りさせるに重要な要素であると考えておられる。小生もこれまで生半可にしか茶道なるものを理解していなかったものの、言われてみて初めて「成る程」と、「東方政策」の権化たるマハティール元首相の凄さを改めて認識した次第である。

こうしたマレーシアの２人の首相よりの直々の要請を受け努力した結果、日本人学生のＭＪＩＩＴ留学については、明治大学ＯＢである吉岡洋介ローム・ワコー（株）名誉会長のご寄付で奨学金制度（吉岡奨学金マレーシア日本

国際工科院留学プログラム）を設けることができ、昨年9月、明治大学理工学部（2013年卒）より第1号の日本人留学生となる渡邉俊介君がMJIITの修士課程に入学し勉学を開始した。MJIITでの指導教官は、東方政策により日本で博士号を取得したウィラ先生である。

また茶道についても、日本人会で先生をされておられる高野まき子先生にお願いして、茶道に関する講義と実習が、必修科目である「人間力コース」の一部として、クアラ・ルンプール国際交流基金の事務所に設けられている茶室で実施される運びとなった。茶道がなんたるか、何も知らない可能性の高いマレーシア人の学生が、果たして茶室での正座に耐えられるかは極めて疑問ではあるが、茶道の要求する静寂の中での礼儀作法、茶花や掛け軸そして茶器の鑑賞なども経験すれば、マハティール元首相の言う日本文化に対する理解が深まり、日本式工学教育にも良い影響が出てくるものと思われる。

マレーシアにおける理想的な日本式工学教育の実施には、コンソーシアム大学に対して日本人教員の継続的派遣、日本企業に対しても、学生の企業研修を含む各種協力をお願いしていかなければならず、そのためのMJIIT側の努力を倍加していかなければ、何事も順調には進まないのが現実である。しかしながら、日本文化の神髄を知り尽くしている元首相と「東方政策のセカンドウェーブを」とアピールする現首相とが、2人してこのMJIITを後押しするケースは希有のことである。我々日本側の対応が、まさに正念場を迎えていると言えよう。

## 吉岡奨学金 マレーシア日本国際工科院留学プログラム

明治大学の協定校でもあるマレーシア工科大学（UTM）傘下のマレーシア日本国際工科院（MJIIT）に学生を派遣し、ASEANの工学教育の最先端を学んでもらい、アジアをリードする技術者・研究者を育成するプログラム。明大の卒業生で、長年マレーシアと協力関係を築いてきたローム・ワコー株式会社の吉岡洋介名誉会長（1956年商学部卒）からの寄付により、派遣学生はマレーシア国際工科院に1年間留学するための学費、往復航空券、宿泊費、生活費に関わる奨学金が支給される。

また、2月～3月の冬休みを利用した短期留学制度もある。

≪問い合わせ先≫
明治大学　国際教育事務室
TEL：03-3296-4487
Email：kokusaik@meiji.ac.jp